

富山県花と緑の祭典2022

第50回

花と緑の大会

と き 令和4年10月19日(水)

ところ 富山県民会館



たいようと なかよしこよし はなみどり

標語 富山市立大久保小学校2年 奥井愛琉
画 氷見市立比美乃江小学校5年 谷井知歩

令和4年度 花と緑のコンクール 最優秀賞

公益財団法人 花と緑の銀行

富山県花と緑の祭典2022

第50回 花と緑の大会次第

- I 開 会
- II 知事（名誉会長）あいさつ
- III 花と緑の功労者表彰 1～6
 - 1 富山県環境部門県土美化分野緑花功労表彰
 - 2 公益財団法人花と緑の銀行理事長表彰
- IV 花と緑のコンクール表彰
 - 1 花と緑のポスター原画コンクール 7～9
 - 2 花と緑の標語コンクール 10
 - 3 富山県花のまちづくりコンクール
 - (1) 学校花壇..... 11～12
 - (2) 幼稚園・保育所花壇..... 13～14
 - (3) プレミアム花壇..... 14～15
 - (4) 一般花壇..... 16～17
 - (5) 花の道..... 18～19
- V 来賓祝辞
 - 富山県議会議長
 - 富山県緑花推進県民会議会長
- VI 来賓紹介
- VII 記念写真
 - (休 憩)
- VIII 花と緑の講演会 20～21
 - 演題 「儲かる花と緑のまちづくり」
 - これからの「花と緑のまちづくり」は何を目指すべきか —
 - 講師 兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科
 - 教授 平田 富士男 氏
- IX 閉 会

※同時開催 令和4年度 富山県花と緑のコンクール入賞作品・写真展示

Ⅲ 花と緑の功労者表彰

1 富山県環境部門県土美化分野緑花功労表彰

ほくとう とし お
北東 俊夫 (富山市)

平成16年に「花と緑の銀行富山支店上条地方銀行」の頭取に就任し、平成27年からは「富山市花と緑の連合協議会」の会長として、地域の緑化活動に取り組んでいる。地域の花壇整備や桜の育樹活動を行うほか、地域の保育園へ花植え指導を行うなど、地域の緑化や普及啓発に貢献している。

おお た れい こ
太田 禮子 (高岡市)

平成7年に「花と緑の銀行高岡支店中田地方銀行」のグリーンキーパーに就任し、平成8年からは「中田地区花と緑の推進協議会」の幹事として、地域の緑化活動に取り組んでいる。地域の花壇整備を行うほか、花苗の育成・配布を行うなど、地域の緑化や普及啓発に貢献している。

と い で ち く は な みどり すいしんきょう ぎ かい
戸出地区花と緑の推進協議会 (高岡市)

平成2年に設立されて以降、戸出地区の緑化活動に取り組んでいる。地区の花壇整備や緑化木の管理を行うほか、花と緑の講習会や花苗の配布を通じて普及啓発に取り組むなど、地区の緑化に貢献している。

しょう げ りょく か すいしんきょう ぎ かい
庄下緑花推進協議会 (砺波市)

平成元年に設立されて以降、庄下地区の緑化活動に取り組んでいる。「私たちの夢花壇」をはじめとした地区の花壇整備・造成を行うほか、花苗の育成・配布を行うなど、地区の緑化に貢献している。

かま が ふちえき かい
「釜ヶ淵驛」をよくする会 (立山町)

平成19年に設立されて以降、釜ヶ淵駅及び駅周辺の緑化活動に取り組んでいる。駅周辺の花壇整備を行うほか、地域住民向けの花壇づくり教室や、小学生向けの花と緑の講座等を開催するなど、地区の緑化に貢献している。

2 公益財団法人花と緑の銀行理事長表彰 (個人の部)

いまいずみ たか お
今泉 隆雄 (富山市)

平成10年に上滝地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、24年にわたり大山寺駅前や新栄町公民館を中心に、地域の緑化推進に貢献している。

上滝小学校では花の栽培指導を通して若い世代に花と緑に関心を持たせ、世代間交流の場を創出している。

すぎもり く み こ
杉森 久美子 (富山市)

平成11年に大久保地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、23年にわたり3つの小学校への指導やサルビア園での植栽など、大沢野地域全体の緑化推進に貢献している。

花の栽培指導をしている大久保小学校は、平成24年に緑化推進運動功労者表彰内閣総理大臣賞の受賞をはじめ、県や市の花壇コンクールの入賞常連団体となっている。

いな の ひとし
稲野 仁 (富山市)

平成15年に奥田地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、19年にわたり地域の緑化推進に貢献している。

活動拠点である富山港線下奥井駅周辺では、学校や周辺企業と連携して駅前花壇の手入れをしているほか、日本たんぽぽを守る会の一員として希少植物の保護活動にも取り組んでいる。

お が わ ただ お
小川 忠雄 (高岡市)

平成20年に佐野地方銀行のグリーンキーパーに就任すると同時に、佐野花の愛好会に入会し、以来14年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

平成23年には佐野地区花と緑の推進協議会会員となり、令和3年からは同副会長として、公園や公民館、小学校の花壇整備の指導を行い、大きな信頼を得ている。

かさ ま よう こ
笠間 洋子 (高岡市)

平成3年から立野栄町花づくり会の理事として31年にわたり活動し、平成16年からは立野地方銀行のグリーンキーパーとして18年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である歩道を活用した立野栄町フラワーロードは、平成24年に当銀行団体の部で理事長表彰を受賞している。

もとふさ しげはる
本房 繁治 (高岡市)

平成19年に小勢地方銀行のグリーンキーパーに就任すると同時に、小勢地区緑化推進委員会を立ち上げ、以来15年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

推進委員会では、会長、相談役として会員をリードし、県や市の花壇コンクールへの参加や花壇デザインの企画等で中心的役割を担っている。

お が わ みき お
小川 幹夫 (高岡市)

平成16年に東五位地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、18年にわたり東五位小学校前のしあわせ花壇の整備に取り組むなど、地域の花と緑の推進に貢献している。

また、平成16年から4年間、東五位校下緑化推進協議会の会長を務め、花壇コンクールへの参加や花壇デザインの企画等で中心的役割を担っている。

よしだ はるみ
吉田 晴美 (高岡市)

平成14年から3年間、羽広花と緑の推進員として活動し、平成17年からは横田地方銀行のグリーンキーパーとして17年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である羽広花壇やオアシス通り横田交番前などを中心に、精力的に後進の指導にあっている。

しまの かずお
島野 和夫 (射水市)

平成22年に南太閤山地方銀行の頭取に就任し、平成26年から令和4年3月まではグリーンキーパーとして、延べ12年にわたり小杉地域を花と緑でいっぱいにする活動に尽力している。

活動拠点である南太閤山8丁目ふれあい花壇では、栽培指導や植栽・管理の中心的役割を担っており、退任後も緑化活動を継続するなど、地域の緑化推進に貢献している。

さえき けいこ
佐伯 恵子 (射水市)

平成17年に作道地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、17年にわたり津幡江地区を花と緑でいっぱいにする活動に尽力している。

活動拠点である津幡江ふれあいカダンは、市花壇コンクールにおいて平成22年から令和3年まで継続して参加し複数回受賞するなど、地域の緑化推進に貢献している。

みやかわ てつお
宮川 哲男 (魚津市)

平成17年に本江地方銀行のグリーンキーパーに就任し、平成22年から3年間は頭取として延べ17年にわたり地域の緑化活動の中心的役割を担っている。

活動拠点である本江公民館花壇の植栽・管理を行うほか、公民館と協力して寄せ植え教室を開催するなど、地区住民の緑化意識の啓発に貢献している。

はらだ みきこ
原田 三喜子 (魚津市)

平成19年に経田地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、15年にわたり経田地区の緑化活動の中心的役割を担っている。

活動拠点である富山地方鉄道経田駅前花壇の植栽・管理を行うほか、老人会と協力して寄せ植え教室を行うなど、地区住民の緑化意識の啓発にも貢献している。

しいな せんきち
椎名 銑吉 (魚津市)

平成21年に下中島地方銀行のグリーンキーパーに就任し、平成26年からは頭取として延べ13年にわたり地域の緑化活動の中心的役割を担っている。

活動拠点である慶野公民館前の花壇整備に取り組むとともに、桜の病虫害防除を毎年実施し安心して桜を鑑賞することができる環境整備に努めるなど、地区の景観美化に貢献している。

やまそと いちろう
山外 一郎 (氷見市)

平成23年に碁石地方銀行の頭取に就任して以来、10年にわたり栽培技術・知識の向上や普及に努め、地域の指導者として緑化推進に貢献している。

活動拠点である一划花壇では、花壇のデザインや維持管理計画を立て、県や市の花壇コンクールへ積極的に参加するなど、中心的な役割を担っている。

くぼ えつこ
久保 悦子 (氷見市)

平成20年に余川地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、13年にわたり技術・知識の向上に努め、地域の指導者として緑化推進に貢献している。

活動拠点である余川ふれあい花壇では、旧小学校花壇を地域の花壇として維持管理し、県や市の花壇コンクールに積極的に参加するなど、中心的役割を担っている。

よるいだか たつゆき
鎧高 辰之 (氷見市)

平成21年に菟田地方銀行グリーンキーパーに就任して以来、13年にわたり地域の指導者として緑化推進に貢献している。

地域の若い人たちと積極的に花壇づくりを行うほか、植物の育成場所の整備や地域への花苗の配付を続けている。

こしみず まさこ
越水 正子 (氷見市)

平成19年に十二町1区地方銀行グリーンキーパーに就任して以来、14年にわたり技術・知識の向上に努め、地域の指導者として緑化推進に貢献している。

万尾公民館敷地内での花壇造成にあたっては中心的な役割を担い、現在も自治会と協力して維持管理に努めている。

まつくら ひでこ
松倉 英子 (黒部市)

平成15年に下立地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、19年にわたり地域の緑化推進に貢献している。

活動拠点である下立コミュニティ広場プランターの維持管理を行うとともに、地区の通学路プランターの整備を通して、住民や小学生との世代間交流の場を創出している。

くろだ しゅうりょう
黒田 修良 (黒部市)

昭和61年に東布施植物愛好会を結成して以来、34年以上の長きにわたり植物展示会の企画立案や会長として団体の運営など、地域の緑化意識の啓発に尽力している。

平成17年に東布施地方銀行のグリーンキーパーに就任して以降も、17年にわたり地区の緑化活動に携わるなど、地域の緑化推進に貢献している。

ささき あつこ
佐々木 惇子 (黒部市)

平成17年に若栗地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、17年にわたり地域の緑化推進に貢献している。

活動拠点である若栗ふれあいセンター花壇の維持管理に努めるとともに、地区のグリーンキーパーのまとめ役として活動するなど、緑化活動に尽力している。

あきもと かずゆき
秋元 和行 (小矢部市)

平成16年に水島地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、18年にわたり地域の緑化推進に貢献している。

活動拠点である公民館周辺の花壇やプランターの世話を積極的に行うとともに、地元保育所へのチューリップの贈呈を継続して行っている。

ほんだ きよし
本田 清 (小矢部市)

平成16年に正得地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、18年にわたり正得コミュニティ広場や公民館周辺の花壇を中心に、地域の緑化推進に貢献している。

また、正得園芸クラブ員として会長を補佐し、平成24年からは顧問となって後継者の指導や、地域住民に対する緑化推進の普及活動に尽力している。

ますだ れいこ
増田 麗子 (南砺市)

平成8年に菟谷地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、26年にわたり緑化活動の中心的役割を担うなど、地域の緑化推進に貢献している。

活動拠点である細野会館花壇では、デザインや植栽・維持管理等について、年間を通して精力的に取り組んでいる。

なかがわ やすゆき
中川 康行 (南砺市)

平成11年に城端地方銀行グリーンキーパーに就任し、平成28年から5年間は銀行頭取兼支所長（5地方銀行）として活動するなど、延べ23年にわたり地域の緑化推進に貢献している。

観光地である城端別院近くの蔵回廊の道沿いの花壇は、多くの観光客の目を楽しませており、地域の花壇整備や維持管理に精力的に取り組んでいる。

はやし よしえ
林 芳枝 (南砺市)

平成14年に井波地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、20年にわたり八乙女花壇のデザインや整備・維持管理など、地域の緑化推進に貢献している。

また、井波自然観察友の会副会長やとやまさくら守の会の会員として、市内各地で自然環境保全や森林等の整備に熱心に取り組んでいる。

やなせ あつこ
柳瀬 篤子 (上市町)

平成19年に弓庄地方銀行の頭取に就任して以来、15年にわたりふれあいガーデンを活動拠点として、花壇のデザインや整備・維持管理等について中心的な役割を担っている。

また、コンテナガーデンコンテストへの参加や、上市支店定例会ではまとめ役を務めるなど、地域の緑化活動に大いに貢献している。

ふじき とみこ
藤城 富子 (立山町)

平成9年に釜ヶ淵地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、25年にわたり地区内の花壇・プランターの維持管理など、地域の緑化推進に貢献している。

釜ヶ淵駅前ではプランターを設置し、魅力的な駅の一端を担っているほか、相互に意見を出し合える環境を築きあげるなど、他のメンバーからの信頼も非常に厚い。

ひらい かずこ
平井 和子 (立山町)

平成17年に高野地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、17年にわたり地区内の花壇・プランターの維持管理など、地域の緑化推進に貢献している。

活動拠点である公民館では、老人クラブ等での長年の経験を活かし、見る人の癒しとなる場を提供できるように、花苗の定植や植え替えを継続的に行っている。

ふなはし まこと
舟橋 誠 (朝日町)

平成26年に花と緑の銀行泊1区地区の頭取に就任して以来、8年にわたり地域の緑化推進に貢献している。

活動拠点である海浜公園キャンプ場や、あいの風とやま鉄道泊駅前花壇では、花壇の花植えや水かけ・除草等の管理を通じて、利用者に潤いと安らぎを与えている。

(団体の部)

とやまし りつおい だしょうがっこう 富山市立老田小学校 (富山市)

県や市が開催する花壇コンクールへの参加や、給食時の花壇クイズの実施、授業での写生や観察などを通じて、生徒の緑化に対する意識の向上に努めている。

地域や保護者から提供のあった種苗の活用や自動散水システムの導入により、生徒たちが長い期間多くの花に親しむことができるよう工夫している。

とやまし ごばんまちようちえん 富山市五番町幼稚園 (富山市)

県や市の花壇コンクールに積極的に参加し優秀な成績を収めている。市街地の限られた花壇で園児の意向を取り入れ、花の色合いや高さを利用した立体感ある花壇づくりに取り組んでいる。

野菜づくりや日々の水やり・管理を通して、園児が広く花と緑に興味・関心を持ち、植物を思いやる温かい優しい心を育てている。

いちのい かだん 市井コミュニティ花壇 (射水市)

平成12年に花の会を発足し、令和元年からは地元自治会が主体となって、地域全体で花壇造成等に取り組んでおり、保育園児や高齢者との地域交流の中心の場となっている。

花壇活動だよりを発行し、地域全体に取り組みを周知している。また、令和3年度県花壇コンクールプレミアム花壇部門で最優秀賞を受賞するなど、非常に高い水準で取り組んでいる。

ふらわー あい かい フラワーを愛する会 (黒部市)

平成23年に道路愛護ボランティアとして結成され、あいの風とやま鉄道黒部駅前花壇を活動拠点として、地区住民や各種団体とともに細やかな維持管理を行っている。

この駅前花壇は、春から秋にかけて長い期間花を楽しめる場として定着しており、駅利用者や通行人の心を和ませるなど、緑化推進や普及に貢献している。

ひがしやま みちくりよつ かすいしんきょうぎかい 東山見地区緑化推進協議会 (砺波市)

平成8年に旧庄川町の土地を借り受け、畑直プチガーデンとして整備し、平成17年には東山見地区緑化推進協議会を設置し、ひがしやまみガーデンと改称して維持管理に取り組んでいる。

地区住民や各種団体の協力を得て四季折々の花を提供し、世代交流の場として活用されており、市のコンクールでも近年常に入賞している。

サルビアグループ (南砺市)

2000年富山国体を契機に花壇活動が始まり、以来地域住民と協力して花壇活動に取り組んでおり、南砺市や福光地域が開催する花壇コンクールにも積極的に参加している。

地域公民館の花壇を整備することで、地域緑化の普及啓発に寄与しており、住民に花のことや花壇づくりについての指導も行っている。

Ⅳ 花と緑のコンクール表彰

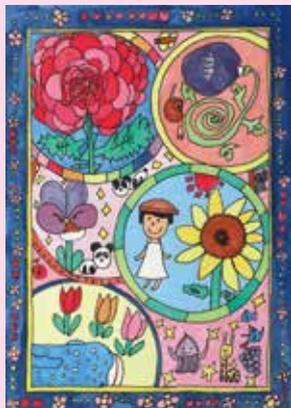
1 花と緑のポスター原画コンクール

最優秀賞



氷見市立比美乃江小学校 5年
谷井 知歩

優秀賞



高岡市立下関小学校 3年
永井 愛華

優秀賞



富山市立鶴坂小学校 6年
沓掛 唯

優秀賞



富山市立奥田中学校 2年
清河 咲花

優良賞



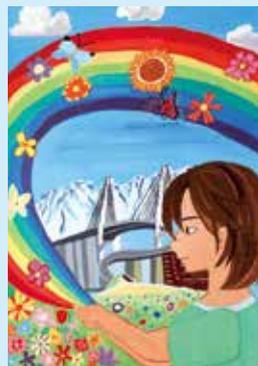
南砺市立福野中学校 1年
宮崎 真菜



南砺市立福野中学校 3年
梅本 悠人



氷見市立比美乃江小学校 1年
伏喜 永花



射水市立新湊小学校 5年
梶井 楓加



富山県立富山北部高等学校 1年
遠藤 美月



氷見市立窪小学校 2年
中尾 望愛

総 評

今年もほぼ例年並みの応募がありました。

大人はコロナ、戦争など、先の見えない日常に暗い気持ちになりがちですが、子供達の絵はとても明るく、ホッとさせられました。一日も早く平穏な日常にと願うばかりです。

テーマは様々ですが、それぞれの花に対する優しい気持ちをいろいろな形で捉え、発想、構図ともに個性豊かな作品が多かったように思います。

最優秀賞評

最優秀賞を受賞した氷見市立比美乃江小学校 谷井知歩さんの作品は、楽しそうに花に水やりをしている様子がとても生き生きと描かれ、色彩もカラフルで花も効果的な描き方で力強く楽しい気持ちが観る人にも伝わって来るようで、とても魅力的な作品に仕上がっています。

(審査委員長 米田 雪子)

佳 作



滑川市立西部小学校 1年
坂東 美怜



富山市立大久保小学校 1年
小森 望央



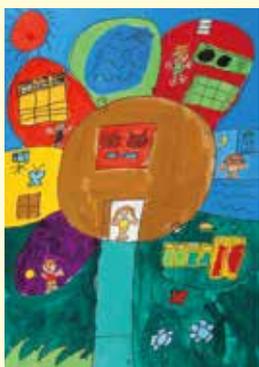
高岡市立南条小学校 1年
山崎 仁太



入善町立黒東小学校 2年
朝倉 七海



富山市立豊田小学校 2年
石田 七海



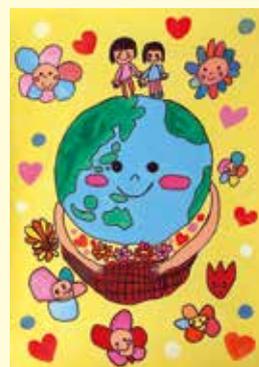
富山市立藤ノ木小学校 2年
堀江 鷹矢



富山市立東部小学校 2年
中村 咲希



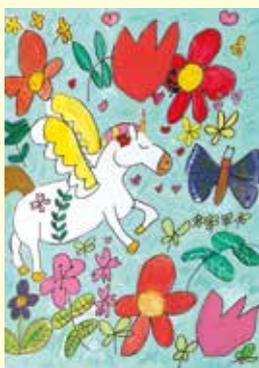
射水市立大島小学校 2年
小林 咲花



氷見市立十二町小学校 2年
澤井 美咲希



富山市立広田小学校 3年
中村 麗



富山市立朝日小学校 3年
岡崎 碧



射水市立大島小学校 3年
末松 七星



高岡市立木津小学校 3年
田中 滯佳



高岡市立下関小学校 3年
南 うた



砺波市立砺波南部小学校 3年
中山 菜杏那



南砺市立福野小学校 3年
横川 直哉



上市町立上市中央小学校 4年
廣田 蘭



富山市立蜷川小学校 4年
數岸 芽依



高岡市立高陵小学校 4年
山本 一誠



南砺市立井波小学校 4年
楠 ひなた

佳 作



黒部市立荻生小学校 5年
鈴木 桜和



滑川市立西部小学校 5年
小林 芽生



富山市立熊野小学校 5年
柳瀬 夏帆



小矢部市立石動小学校 5年
小森 駿



上市町立上市中央小学校 6年
土肥 和夏



射水市立新湊小学校 6年
本郷 亜美



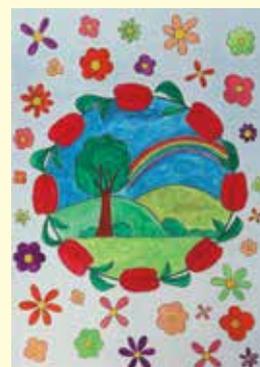
高岡市立牧野小学校 6年
津幡 心春



富山市立岩瀬中学校 1年
山口 美津紀



富山市立速星中学校 1年
老田 有紀音



砺波市立出町中学校 1年
田村 優衣



入善町立入善中学校 2年
室 香里



魚津市立西部中学校 2年
雛形 采実



富山市立大沢野中学校 2年
前田 迅理



氷見市立西條中学校 2年
新井 かのん



南砺市立福野中学校 2年
田島 光留



黒部市立明峰中学校 3年
塚田 初紀



魚津市立西部中学校 3年
山本 なるみ



富山県立滑川高等学校 1年
稲本 凌成



富山県立滑川高等学校 1年
牧野 花恋



富山県立富山北部高等学校 1年
押田 遥菜

2 花と緑の標語コンクール

最優秀賞

たいようと なかよしこよし はなみどり

富山市立大久保小学校 2年 奥井 愛琉

優秀賞

花ひらく マスク外して 深呼吸
ひまわりと おいつけおいこせ せいくらべ
元気なあかるいお花たち わたしにパワーを ありがとう

小矢部市立大谷中学校 2年 島 若菜
氷見市立上庄小学校 3年 向 結菜
氷見市立西の杜学園 2年 山下 歩南

優良賞

そよぐかぜ ゆれるみどりに しんこきゅう
花が咲き 笑顔の輪っか 広がって
一輪の 小さな花が よろこびに
ひまわりさく じいちゃんのえがお おもいだす
大樹でも はじめはみんな 小さな芽
いつまでも 残していきたい 花と緑のハーモニー

朝日町立さみさと小学校 1年 永井ひかる
小矢部市立大谷中学校 1年 元井 花純
氷見市立上庄小学校 5年 向 颯真
氷見市立西の杜学園 1年 川崎 恵介
入善町立入善中学校 3年 戸出 晴
朝日町立さみさと小学校 6年 大村 昂

佳作

あさがおさいた きょうもたのしく はじまるよ
ただいまと こえかけながら お水やる
そだてよう きれいな花と やさしい気もち
花のかおりにつられたね チョウがよるこぶ レストラン
お花がいっぱい えがおがいっぱい しあわせいっぱい
うれしいな
花や木は 未来の町への プレゼント
ぼくたちと いっしょにそだつ 小さなめ
星が見え マリーゴールド ゆれていた
ひまわりが ぼくの背をこす 夏休み
育てよう 元気の源 花と緑
負けるなよ コンクリから出る 緑の芽
友達と かんむり作った 登下校

氷見市立西の杜学園 1年 髙尾真利恵
富山市立大久保小学校 2年 牧野 杷子
富山市立大久保小学校 2年 前坂 梨華
入善町立桃李小学校 3年 上島 彩蘭
朝日町立さみさと小学校 3年 加藤 剣士
朝日町立さみさと小学校 3年 酒井 楓
朝日町立さみさと小学校 3年 中川 恵太
南砺市立上平小学校 3年 相田 悠羽
氷見市立灘浦小学校 5年 高畑 快成
朝日町立あさひ野小学校 6年 池田 陽香
小矢部市立大谷中学校 3年 林 大雅
小矢部市立大谷中学校 3年 川田あまね

総評

小・中学生の皆さんがとらえたさわやかな情景や思いが、数多く寄せられました。見過ごしがちなこともしっかり見つめ、素直に驚き、それを自分の言葉で表現した作品は人の心に強く響きます。毎日の生活では、悩むこともあるかもしれませんが、そんな時には花と緑やそれをいつくしむ人々の姿に目を向けてみましょう。前に進むヒントに自分で気付くことができるように思います。気に入った標語を時々口ずさんでみるのもいいですね。



最優秀賞評

最優秀賞を受賞した富山市立大久保小学校 奥井愛琉さんの作品は、分かりやすい三つの語句が響き合うことで、思いが大きくふくらみました。リズムカルな言い回しが読む人の心に気持ちよく届き、作品を深く理解することができます。いろいろなものと「なかよしこよし」になることにより、自分の世界が広がっていくことも感じさせてくれます。

(審査委員長 山本 晶)

3 富山県花のまちづくりコンクール

(1) 学校花壇

最優秀賞



黒部市 若栗小学校

優秀賞



高岡市 成美小学校



黒部市 石田小学校



射水市 作道小学校

優良賞



黒部市 中央小学校



射水市 塚原小学校



富山市 船峯小学校

奨励賞



砺波市 庄東小学校



氷見市 窪小学校



入善町 飯野小学校

努力賞



南砺市 利賀小・中学校



富山市 堀川中学校



高岡市 南条小学校

総 評

審査は1学期の終業式を目前にした7月19日、20日に行いました。

6月は猛暑、そして早い梅雨明けのあと審査日近くには雨が続きました。どの学校でもぐんと生育した花々が迎えてくれました。今年は、創立140周年や150周年等の節目を迎える学校が多く、花育てを通して心の育成を目指す取り組みが顕著でした。新たに審査対象となった小中学校では、留学生を加えたり、小学生と中学生が協力して作った花壇など、新鮮な取り組みがありました。それぞれの学校では、昨年から続く新型コロナウイルス感染防止の対策の中、デザインを工夫し、子供たちを主体にした学校花壇がつけられていました。

どの学校も土作りに最も手間をかけているようで、土作りに相応して美しい花が咲いていると感じました。プラグ苗や越年したペコニア苗を利用する学校がありました。また、防草対策に苦慮する学校にはパークたい肥を勧めました。苗の配布が遅れたため、生育がやや遅れがちの学校には今後の育ちに期待をしました。

デザインでは各学校で、花壇に応じて、花の配置が考えられ、色や高低差も効果的に見えるよう配置されていました。花で文字や形を作り、カラフルな色や並べかたに動きが感じられるよう工夫された花壇もありました。

保護者やグリーンキーパーの支援を得て土作りに取り組んだり、地域の方々から草むしりを助けてもらったりして地域との交流をすすめる学校が多くありました。朝活動の時間、生活科や理科・総合的な学習の時間などで、一生懸命に花壇の世話をしている姿が素晴らしいと思いました。花壇を紹介する子供たちからは、美しい花壇を育てていることへの誇りが感じられました。また、上学年の子どもが下学年の子供に教えている姿もありました。花壇の花が元気に育つとともに、子供たちの笑顔が増え、学びが重なりますようにと願いました。



最優秀賞評

「心の花を咲かせよう。にじいろフラワーランド」のテーマで取り組んだ、黒部市の『若栗小学校』が最優秀賞を受賞しました。どの教室からも中央花壇が見下ろせ、工夫されたデザインが見事な花壇でした。

前年からPTAの方や職員で花壇の土作りに力を入られたことが有効でした。また、日照の強い日が多かった本年は、花壇の立地が半日陰だったため、水持ちもよかったです。花壇の外側は、長年学校と共にある樹木を多年草のやさしい色合いで包むよう配置され、中央の円形花壇は、カラフルで曲線を描いた花のラインが動きだすようでした。また花で描かれた星型、二重のハート型、若栗のWの頭文字がくっきりと現れていました。デザインは児童から募集し、環境委員会が中心になり決めていきます。花苗の植付は5月12日に1・6年、2・4年、3・5年のペア学年で行われました。その後、水やり・草取りは全校児童で、追肥・花柄摘み等は環境委員会の児童や職員が適宜行っています。

若栗小学校の花壇づくりの歴史は長く、職員にも経験者が多く、熱心に子供たちの作業にかかわっておられるようです。また、花壇づくりを通じた児童の学びに惜しみなく協力をされる地域の方々にも恵まれています。地域の方々にも親しんでもらえるようにと設置した花壇のアーチには、アサガオが見事に育ち、思わず「きれい!」と声が出ました。子供たちが中心となり、地域の方々への支えられた見事な学校花壇に拍手を送ります。そして子供たちの心に大きな花が満たされたことをお祝いし、それを支えた地域の方々への敬意を表します。



(審査委員長 五十嵐 俊子)

(2) 幼稚園・保育所花壇

最優秀賞



富山市 新庄保育所

優秀賞



射水市 小杉東部保育園



富山市 西田地方保育園



富山市 老田保育所

優良賞



氷見市 速川保育園

総評

審査は7月21日に行いました。園によって花壇を設置できる場所はさまざまですが、狭い場所でもプランターをうまく利用して、子供たちのためにはもちろん、園児の送迎の人々、公道に面した所を意識した花壇等、地域交流のある花壇づくりになっていました。そして、いずれの園においても子供の目線を意識し、園児が花壇の中に入って遊んだり学んだりできるように、花のトンネルやストーリー性を感じられる子供のための工夫が花壇の随所にこらされておりました。

日常の遊びの中で、多種多様な植物に触れる機会を作り、花がある環境の中で、きれいな花を集めることを楽しんだり、色水をつくったり、ケーキを作って飾った

り、多様な活動が生まれ、花の色彩や香り、蜜の甘さ、土の感触、そこに飛来する野鳥や昆虫の生態を観察するなど、一人一人が多くのことを学んでいるのだと感じました。

また、花壇やプランターに野菜を育てているところもありました。花が咲き、実がなり、収穫を喜び、感謝して食すことで、子どもたちは退屈することなく「食」を学ぶことができるのです。なお、今回の応募は県下全体の推薦枠の3割にも達しなかったようで、来年は各支店からの応募があることを期待しています。



最優秀賞評

最優秀賞を受賞した富山市の『新庄保育所』は、近所で雪折れした桜の枝をアーチ状にし、アサガオやフウセンカズラを這わせたり、ペットボトルを利用したハンギング、既存のプランターはプラ板で電車に変身させ、花々の中に動物の乗客を乗せ、グリーンカーテンのネットには、牛乳パックで作った虫や、虹を配置するなど、子供たちが毎日楽しみに登園したくなるような工夫にはすばらしいものがありました。

また、畑のトウモロコシはあえて大人が口を出さず、鳥に食べられたら来年はどうすれば良いか子供たちと考える（職員が子供の声を聴いて次につなげる）とのこと。子供たちが自由に植物と触れ合い、アイデアを出し合い、夢いっぱいの空間が広がる花壇づくりがなされていました。



(審査委員長 舘 睦美)

(3) プレミアム花壇

最優秀賞



射水市 小杉花作り同好会

優秀賞



射水市 市井コミュニティー花壇



富山市 八尾園ふれあい花壇



富山市 寺崎 啓乃



南砺市 梅ヶ島フラワー街路の会



南砺市 桐木花と緑の推進協議会

優良賞



富山市 文京町公園愛護会



砺波市 梅檀山花と緑の推進協議会

総 評

審査は7月29日に行いました。今年は、新型コロナウイルスの感染拡大が収まりかけた頃の植栽となりましたが、天候は植栽直後の猛暑、さらに7月の長雨となり、徒長しがちな苗の栽培管理にご苦労されたことと思います。対象の8花壇は、そのような中でも長年の経験による高い栽培技術により上手に植物の管理をされていました。デザインについても、それぞれの場所の特性を生かし、美しい景観を作り出していました。そのため審査の結果はわずかな差で決まりました。最も高く評価されたのは、地域の子供たちの参加型花壇となりました。

個人、団体ともに、花壇を通して地域との交流を行うために様々な努力をされていました。栽培管理については、発生する植物残渣を公園内で1年寝かせて完熟させ、花壇内で持続的にリサイクルできる仕組みを確立している所などがありました。また、経費を抑えるため採種による自家生産苗中心の花壇でも、実生で出た優れた形質の種子を播種、選抜して新たなデザインに挑戦している所もありました。

今後の課題としては、土壌殺菌剤で生育不良をコントロールするのではなく、有機物の分解を促す土壌微生物を活かした健全な土づくりにも目を向けることが必要であると思いました。また、その年のテーマを作るなどメッセージ性のある花壇に挑戦されることを期待します。



最優秀賞評

最優秀賞を受賞した射水市の『小杉花作り同好会』の花壇は歌の森運動公園内にあり、特に今年は、地域の幼稚園児にウクライナの国花であるヒマワリの種ダンゴ作りから植栽指導、ヒマワリの絵を添えた看板設置等、参加型の取り組みが高く評価されました。

もともとは樹木の植栽桝だった四角い花壇の中央に赤や黄色のハゲイトウの苗を植栽後、子供たちに自分で作ったヒマワリの種ダンゴを植えつけてもらい、さらに自分で描いたヒマワリの絵の看板を花壇に立てました。ヒマワリは子供の背丈になる100cm程度の矮性種を選ぶなど、子供の目線で植物を楽しめるデザインになっており、子供たちが何度も花壇に通い観察したくなる教育的効果は、特筆すべき工夫です。一方、帯状のメイン花壇は、子供たちが植えたヒマワリの花壇を際立たせるために、例年と異なり、高さを抑えた宿根草のグループ植栽としていることもデザイン性の評価が高いものとなりました。

今後も花壇が公共施設を利用する住民の憩いの場所としてだけでなく、今回の取り組みのように地域住民を巻き込んだ新たな花壇づくりの発信場所として発展することを期待します。



(審査委員長 渡邊 美保子)

(4) 一般花壇

最優秀賞



南砺市 北部花緑愛好会

優秀賞



南砺市 玉成花壇愛好会



上市町 花と緑の銀行 上市支店



小矢部市 北蟹谷花と緑
の友の会



砺波市 南般若花と緑の
推進協議会



入善町 花と緑の銀行
入善支店 梶山地方銀行

優良賞



黒部市 竹山新一 竹山恵美子



砺波市 般若緑花推進協議会



富山市 上堀駅を愛する会

優良賞



射水市 浅井さらりガーデン



高岡市 小勢緑化推進委員会

奨励賞



富山市 合口用水とビオトープを守る会



砺波市 五鹿屋花と緑の推進協議会



高岡市 定塚花と緑



氷見市 余川ふれあい花壇



射水市 大江コミュニティセンター

総 評

審査は8月2日～4日の3日間行いました。今年の一般花壇部門は、猛暑、長雨など激しい気象変化をもものともせず、色鮮やかに花を咲かせている花壇が多かったことにまず感動しました。堆肥を活用した土づくりが続けられてきたことや水管理、花がら摘みなど、基本的な管理が徹底されていることが強く感じられました。しかし、中には株本体はとて大きく成長しているのに、切り戻しや花がら摘みが遅れて、咲き疲れた花が目立つ花壇や、脇芽の発生も少なく、今後の再生も厳しい花壇が見られました。コンクールの審査日にこだわらず、花の生育状況を優先して、早めの切り戻しを徹底し、若々しい脇芽を多く出させるなど、活力が長く続く花づくりを心掛けることが大切です。

もう一つ心に響いた特徴として、花壇づくりを楽しむ雰囲気がとても強かったことです。

杉林を切り開いて、斜面いっぱいには花を咲かせたり、写真ギャラリーの壁面をモッコウバラで埋め尽くしたり、さらには、電車から眺める人をも楽しませる、個性溢れる花づくりに出会えました。また、メインの花壇をみんなで完成させる取り組みも素敵ですが、自分の好みの花を、寄せ植えやハンギングバスケットで思い思いに咲き揃えたり、かわいい鉢を活用した花飾りも魅力的でした。こんな風にも花づくりを楽しむことができるのかと、改めて学ばせていただきました。

また、コンクールの審査中、今年ほどたくさんのアピールポイントを聞いたり、質問を受けたことはありませんでした。日頃、いかに熱心に花壇づくりに取り組んでおられるか、そして、その活動がいかに楽しいのかが、強く伝わってきました。

今年の花壇づくりで忘れてはならないことは、ウクライナの平和を願って、黄色と青色のデザインを取り入れたり、たくさんのヒマワリを咲かせることに思いを込める活動がとても多かったことです。皆さんの思いが一日でも早く届くことを強く願っています。



最優秀賞評

最優秀賞を受賞した南砺市の『北部花緑愛好会』の花壇はムクゲやキョウチクトウなど、背の高い花木を背景に、合掌造り、水車小屋からコキアとシロタエギクによる小矢部川の流れを組み合わせるなど、色鮮やかな花々で南砺の原風景が表現されていました。花壇の周辺にはライトグリーン系のコリウスとイポメアを組み合わせ、流れるような縁飾りを展開するなど、限られた空間を明るくダイナミックに表現する工夫にも感動しました。

また、サイド花壇のテーブルには十数個のミニ鉢を組み合わせた寄せ植えが飾られ、かわいい空間が演出されていました。さらに、花壇の足元をハツユキカヅラ、ヒメツルソバ、ヒューケラなどで引き締める心づかいはとても勉強になりました。ちょっとした足元も見逃せない魅力いっぱいの花壇でした。

ウクライナの平和を願い、ヒマワリの一本一本に願いを込めて植えられていることにも強く心が動かされました。



(審査委員長 山本 良孝)

(5) 花の道

最優秀賞



砺波市 五ヶみちグループ

優秀賞



小矢部市 野ぎくの会



砺波市 高波花と緑の推進協議会



高岡市 立野栄町花づくり会

優良賞



富山市 新庄北小学校
& 地域団体



高岡市 下伏間江
地域環境保全委員会



富山市 大沢野上大久保地区
花いっぱいグループ



射水市 フラワーロード
土田自治会

奨励賞



砺波市 太田福寿会



氷見市 柳田活性化推進連絡会



南砺市 南部第六福寿会

総評

審査は7月27、28日の2日間行いました。その際に印象に残った事項やとても参考になる取り組みを紹介いたします。

- (1) それぞれ多彩な花のまちづくりに取り組まれており、どこも必見でした。例えば、「コンテナ・プランター主体に街中を花いっぱい」(立野栄町)、「小学生との花育・異世代交流」(新庄北)、「プランター・ハンギングのみでのフラワーロード」(土田自治会)、「砂地の悪条件でもめげないひまわり畑」(柳田)、「殺風景なグラウンドへの一本道を花道に」(南部第六) など
- (2) 6月下旬からの空梅雨の高温少雨に苦しめられ、生育量が小さく、さらに枯死する草種があったとのことですが、①草種の的確な植え替え、②思い切った切り戻し、③毎日の地道な水やりなど、各地とも高い栽培技術力で乗り切っておられました。これからも、それぞれの地で①暑さに強く、土壌条件に合った草種・品種を試作・選択され、②気象の変動(高温・多雨・少雨)にも耐えうる土づくり(多量の一発施用は厳禁ですよ)を基本に、楽しみながら取り組んでいただきたい。
- (3) デザイン面では、「散策するにつれ、いろいろな花に出会え」、「一年草・多年草や灌木でリズムをあたえ」(野ぎくの会、高波、下伏間江)など、長い長い花の道ならではの醍醐味を堪能しました。
- (4) さらに、①花づくりの持続性を見据えて、「多年草や灌木の植栽を広げ、毎年の作業量を減らそう」(下伏間江)、「宿根草や地覆類を意識して栽植、他地域グループと連携」(大沢野)、②地域共生の輪を広げようと、「地域内での花壇や庭の審査会を実施」(立野栄町)、「123m花畑を見る会の開催や写真コンテストの実施」(新庄北)など、いろいろな試みについて伺うことができました。



最優秀賞評

最優秀賞を受賞した砺波市の『五ヶみち花壇』は、県道沿いに里山と田んぼを借景にした全長150mの花の道です。60名の会員の皆さんが、25年間にわたりお世話されており、すでに、当コンクールで最優秀賞を何度も受賞されるなど、とやまを代表する花の道です。

青いアガパンサスと黄色のヒマワリを後部に配置し全体を統一かつ引き締め、前面にはコリウス、マリーゴールドなど多彩な草種を配置し、花の道全体に変化とリズムを醸し出していました。また、ウクライナへの応援も込めたとのことでした。さらに今年は赤のベゴニアで大きな「ハート」を中央円形花壇に描き、インパクトの大きなデザインでした。

花たちも空梅雨を乗り越え、元気で生き活きとし、昨年まで見られた過剰なモミ殻たい肥のマルチ施用(土壌混層後の窒素飢餓を懸念)も是正されるなど、グループの皆さんの高い栽培技術力が推察されました。

なによりも、ワイワイとしたお話、笑顔から、皆さん自身が日々楽しんで花と過ごしておられるんだなあ、こちらもうれしくなりました。これからもお互いの歳のことは気になさらないで、元気に仲間を増やし、ワイワイと楽しみの輪を広げていただきたいと思います。



(審査委員長 石黒 哲也)

〈令和4年度花と緑のコンクール審査員〉

○ 第48回花と緑の標語コンクール

山本 晶 立田ひろみ 関口 和美 木原 和夫 井上 靖啓 長谷川道隆

○ 第50回花と緑のポスター原画コンクール

米田 雪子 広井 優子 越谷なつみ 高橋 幸博 木原 和夫 井上 靖啓 長谷川道隆

○ 第49回富山県花のまちづくりコンクール

川原 俊昭 越谷なつみ 大井 巖 五十嵐俊子 兼本 正 舘 睦美 久恵 早苗
 原田 智洋 中川 悦子 吉田めぐみ 渡邊美保子 中田 政司 十二町 薫 西尾 倫顕
 石黒 哲也 石崎 弥佳 高田 敏充 高橋 一臣 山本 良孝 川崎 弘美 古崎 三夫
 大原 隆明 井上 靖啓 長谷川道隆 (順不同)

Ⅷ 花と緑の講演会

「儲かる花と緑のまちづくり」

— これからの「花と緑のまちづくり」は何を目指すべきか —

兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科

教授 平田 富士男

1 阪神・淡路大震災から27年、淡路景観園芸学校開校から23年

私は、1999年に開校した淡路景観園芸学校で「まちづくりガーデナー」育成プログラムを立ち上げ、以来23年あまりにわたってその育成を行ってきました。このプログラムにはいろいろなコースがありますが、それら各コースの修了生は延べで5,000人を越え、県内各地で花と緑のまちづくり活動を展開しています。

開校当初、まちづくりガーデナーの活動の目標として最も大きかったのは「まちと暮らしの復興」でした。しかし、開校20年以上を経て、現在このコースで学ぶ人たちの目標意識は大きく変わっています。その内容を一言で全て説明することはできませんが、代表的なキーワードとしては「コミュニティ」「持続性」があるように感じます。

このうち「持続性」に関しては、この言葉のなかでも多様な意味や方向性を持っています。花と緑のまちづくりで「地域やコミュニティの持続性を実現する」「自分たちの活動の持続性を確保する」「そのために会員の確保、活動財源の確保を図り自立する」など、持続の方向性は多様です。



写真1 淡路景観園芸学校キャンパス

2 花と緑のまちづくりの経済効果

花と緑のまちづくり活動は、グループの儲けのためにするものではありませんが、実は「地域やコミュニティの儲け」に相当の貢献をしている¹⁾と思います。だから、公的助成、寄付、あるいはコミュニティ・ビジネスなどによる収益は堂々と受け取ればよいと思います^{2),3)}し、そのような新たなビジネスを展開すべきだと思います。活動が持続していかないのであれば元も子もないわけですから。

しかし、実際にどのような儲けをどれくらい地域やコミュニティに還元しているのか、を説明するのは簡単ではなく、そのような助成や寄付の獲得にも苦勞をされていることと思います。

実は、皆さんの行っている活動は、地域に対して大きな経済効果を与えています。ただ、その効果量が見えにくいためにそれが実感しにくいのですが、ある方法を使って測定していくことはできます^{4),5)}し、美しいまちなみがある地域の地価は周囲よりも高くなっています。

つまり、花と緑のまちづくり活動には、以下のような経済効果があるのです。

- ・地域やコミュニティの資産価値を向上させます
- ・まちづくり活動に携わる人々の活動や、オープンガーデンのようなイベントに来訪する人々の消費行動が地域経済に波及効果を与えています。

また、このように人が集まり、動く機会をとらえて、商品（花苗、オープンガーデンマップ、地域産品等）の販売に役立てたり、広告収入を得たりして、グループの活動費を確保しようとしているところもあります。

3 インバウンド観光の目玉を目指して

地域経済活性化に対しては、今はコロナ禍でストップはしていますが「インバウンド観光」に対する期待が大きくなっています。日本への外国人観光客が、コロナ禍前は3,000万人を越えていました。そのような外国人観光客は、リピーターとなり、もう東京、京都、大阪をツアーで回ることには飽きて、「個人で、地

方の日本らしさ」を感じ、体験することに関心の中心が移っていくでしょう。「Youは何しにニッポンへ?」というテレビ番組がありますが、これからのインバウンド観光は、目的地とそこでの行動目的を予め明確にしたうえで来日し、そこでじっくりと地域の人と交流する、そしてそこにお金を使う、というものによって変わっていくと思います。

私は3年ほど前、兵庫県の但馬地域で地域の農家のお庭とその家での生活文化体験のプログラムを海外の方向けに行き、彼らの支払い意思額を調べてみました。そうするとその額は約6,000円（移動のための交通費を含む）あることがわかりました。⁶⁾

ここ富山は、持ち家率やお家の床面積が全国トップクラスと聞きます。きっと各家に立派な「前栽」(庭の古語)と「生活文化」が息づいていると思います。オープンガーデンは、必ずしもイングリッシュガーデンを目指す必要はなく、むしろこれからの時代は「日本型オープンガーデン」の方が「儲かる」のかもしれないかもしれません。



写真2 お茶をいただきお庭を見ながら国際交流
(兵庫県豊岡市のあるお宅にて)

4 知恵と工夫で「地域が儲かり」「グループが持続する」活動を

私は、全国花のまちづくりコンクールの審査員をしています。これに応募してこられる方は、往々にして活動の主眼が「きれいな花壇を作ること」に行きがちですが、このコンクールは「花壇やガーデンのデザインコンクール」ではありません。「花の社会性」を活用してまちや地域を元気に、そして持続性あるものにしていく活動を募集しており、それははっきりと募集チラシに「審査の視点」として明記されています。この審査の視点を再度確認いただくことが受賞の近道でもあり、そして何よりも地域とまちを元気にして地域が儲かることにつながるのだと思います。

5 参考文献

- 1) 平田富士男 (2017) 市民によるまちの遊休地緑化の「意義」と「価値」 一兵庫県「県民緑税」を財源とした県民まちなみ緑化事業 (第2期) の評価・検証の取組から一、グリーンエージ2017.2月号、4-7.
- 2) 平田富士男 (2010) 多様化したオープンガーデンの活動内容・課題とその背景との関係性、環境情報科学論文集24、37-42.
- 3) 平田富士男 (2004) オープンガーデン活動に対する行政支援のあり方に関する研究一兵庫県における活動実施者のニーズ分析から一、環境情報科学論文集18、89-94.
- 4) 平田富士男、橘 俊光 (2003) オープンガーデンの地域経済への波及効果量の測定に関する研究、ランドスケープ研究66-5、779-782.
- 5) 平田富士男 (2013~2014) シリーズ「日本型オープンガーデンの展開」、第一回「出藍の誉れ」、第二回「花も団子も、一粒万倍」、第三回「水魚之交、紫蘭之交」、第四回「温故知新」、花の友125~128、いずれも1-4.
- 6) 平田富士男・井上裕美子・田中基文 (2021) 農村部個人住宅での住民との生活文化交流によるインバウンド観光コンテンツ造成技術とその評価、造園技術報告集11、88-93.

◆ 令和4年度

富山県花と緑のコンクール入賞作品展

と き 令和4年12月9日(金)～12月25日(日)

ところ 富山県中央植物園 サンライトホール

◆ 令和4年度

花とみどり・ふれあいフェア

と き 令和5年2月18日(土)～2月19日(日)

ところ 富山市婦中町 フューチャーシティ ファボーレ



はなびー



令和3年度 花とみどり・ふれあいフェア



公益財団法人 **花と緑の銀行**

〒939-2713 富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923

<https://www.bgtym.org/fgbank/>

花と緑の銀行だより 225号

～ 第50回花と緑の大会大会誌 ～

発行日 令和4年(2022)10月